ない人々にとっては最大の関心事です。

福島第一原発事故により土壌が汚染されていることは事実です。これは未だ本格的に調査したわけではなく、また事故が収束したわけではないので更に汚染される可能性も否定できません。

30km 圏外である飯舘村に大学の研究チームがは入り、調査の結果は爆発から 3 ヶ月後でも、最高地点では平常の約 400 倍の放射線が出続ける可能性があるとしています。

4 月中旬現在、30km 圏境界まで調査が入り、浪江町の北西端、南相馬市、広野町等で測定が行われており、国が避難の目安として検討中の年間 20mmSv/h（ミリシーベルト）を超える値だとしておりおりますが、調査範囲が広がれば汚染地域は広がるかも知れません。

肝心の我が故郷は、20km 圏、10km 圏内にあり、何時調査が行われるか判りませんが、より汚染されているだろことは推測できます。

○　新聞情報ですが、そのまま伝えます。3 月下旬飯舘村 5 ヶ所で深さ 5cm の土を採取し、セシウム 137 等の濃度を分析した。

この結果、1 平方 m あたりセシウム 137 が約 219 万～ 59 万ベクレルの高濃度で確認された。1986 年チェルノブイリ原発事故では、セシウム 137 が 55 万 5 千ベクレルを超えた地域は強制移住の対象になったが、単純比較でもその 4 倍になる数値が検出されている。

また、原発で爆発が起きた 3 月 15 日を基点に、地表 1 m地点の大気中野放射線量が 3 ヶ月後にどう変化するかを試算、その結果は 3 ヶ月後でも毎時 21 ～ 7 μ Sv/h の放射線が土壌から大気中に放出することが判ったとしています。

3 ヶ月間、屋外にいたとして単純計算すると、放射線の積算量は、約 95 ～ 30mmSv/h とに上がる。　また土壌に付着したセシウム 137 がそのまま残ると仮定すると、1 年後の積算量は約 20 ～ 70mmSv/h に上がる可能性がある。

半減期が 30 年のセシウム 137 も風雨などの影響で移動。流失して、1 年後には今回の試算値より下がる可能性があるが、反面拡散するともいえる。